

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901548		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム「シャイニング」 フラワーユニット		
所在地	北海道旭川市永山1条11丁目2-39		
自己評価作成日	平成22年10月29日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901548&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を入居者と対話しながら、一人一人に合った生活の構築を心掛けています。
チームワークを重視し、スタッフ皆で入居者の生活を支えていけるような環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線沿いの住宅街に開設されている、鉄骨造り平屋建てでスプリンクラーが完備している2ユニットのグループホームです。敷地は広く、東屋や庭木、畑が作られ外気浴を楽しんだり、気分転換の場として利用されていたり、地域住民が参加する「夏祭り」の開催で交流の機会としても活用されています。また、「子育て支援」事業の展開で地域の子ども達との交流や専門高校生、高校生の実習の受け入れ等ホームの持つ機能の地域への還元にも積極的に努めています。また、身体拘束廃止委員会で内部研修の展開や職員の資格取得を支援する等ケアサービスの質の向上に取り組んでいます。毎月、一人ひとりの健康状態や生活の様子を「たより」で家族に情報提供したり、「シャイニング新聞」を定期的に発行して、行事参加の様子や職員の紹介記事を掲載する等広報に努めています。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気です」「長い間暮らし慣れた家庭の延長となるように」など、「家庭」を基本としたケアの構築を理念としている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、理念を職員間で共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣での散歩や、年1回の夏祭りを通して交流の機会を持つ。	地域住民が参加する「夏祭り」の開催、「子育て支援」事業の展開で地域の子供達とのふれあいや専門学校生、高校生の実習の受け入れ等交流促進に積極的に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でお困りの方が相談に来られ対応したり、必要に応じて地域包括支援センターに繋げるなどしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、報告を行なって参加者の方々より意見を頂き、日々のサービス向上への参考としている。	運営推進会議は、年6回を目安に開催され、行事参加の様子や日常生活の様子、防災訓練や避難誘導等について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者及び地域包括支援センターとの連携、研修等にも積極的に参加に努めている。	市担当者や包括支援センターとは、研修会参加や日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議の中で身体拘束廃止委員会として話し合う機会を持ち、身体拘束のないケアを目指している。	身体拘束廃止委員会の研修を通じて、管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議を通して学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用について現在検討されている方もおり、管理者が研修等を通して得た情報を、職員間で共有できるよう会議等で伝達・報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧かつわかりやすいよう配慮しながら説明を行ない、不安・疑問が解決できるよう心掛けている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族にとっても意見・苦情等を言いやすいよう雰囲気作りに努め、得られた意見・苦情をケア向上等の機会に役立っている。	利用者、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せる機会を作り、市町村等の相談窓口の掲示もしている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見要望等の提案を図り、反映に努めている。	ミーティング等を通じて、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力しています。今回は処遇改善交付金を100%貰えるよう手続きしました。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束廃止の勉強会、外部研修も積極的に参加を促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・ケアマネージャーは、交流ができていてサービス向上に努めています。今後、職員の交流の機会を作ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、契約前に施設内見学をしていただき、ご本人の納得を得て入所いただくよう努めている。またアセスメントを通してご要望等伺うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ事前の見学をしていただき、その際にお話を伺う機会を設け、それぞれの持つ困りごとや悩み、不安などを受け止めるよう心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いや意向を確認し、グループホームとして出来ること・出来ないことを明らかにしながら必要に応じて他のサービスや相談窓口に繋げるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共有した関係が形作られている。また入居者にお世話になることもあり、その際は感謝の気持ちを伝えたりしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の困りごとなどに対し、スタッフ・ご家族で協力し解決できるよう働きかけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に面会の制限は設けず、出来るだけ馴染みの方にも来訪いただけるよう配慮している。	夏祭りや敬老会等のホーム主催の行事や地域の行事参加を通じて、馴染みの人やイチゴ狩り等の外出行事で場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの生活が長い方同士では、家族のような想いで関わり合われている。また関係調整が必要な場合は職員が間に入るなどして対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に該当例はないが、必要に応じ対応したい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活や経過を通して、日頃の会話からご本人の思いや、悩みなどを引き出し、ひとつひとつ検討し解決していく。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や、他機関からの申し送り、ご家族からの情報をもとに把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の希望をよく聴きながら、出来ることは出来るだけご自身で行なってもらい、その様子をよく観察しながら変化ある際は職員間で申し送り対応している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人と対話し、ご家族は面会時や電話連絡を通して、また医療関係者とも密に連携し、得られた情報についてケアマネと担当介護員で話し合いながら介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望を反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をはじめ、申し送り・連絡のノートを活用している。また状況によっては期間を決めてデータをとるなどして計画見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の受診支援、理美容、買い物等必要に応じて柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防署、民生委員、町内会長等々の協力も得ている。学生や地域のボランティアに行事の協力を得ている。また地域包括支援センターに相談するなど。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡をとり、受診等あった際は結果等必ずご家族にも報告するなどしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や通院の支援で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師勤務時に、1週間の中で得た情報から必要と思われる相談事項について報告、相談等行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに情報提供書等作成しお渡ししている。また不明な点はお互いに電話等通じて問い合わせるようにしている。また電話での相談が可能かどうかなど、事前に確認するなどしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった場合や、それらが予測される場合、ホームとして出来る対応等、状況に応じてその都度説明し、その内容を書面化したものを覚書として交付している。また機会を見て早い段階からでも終末期に関するご希望も伺うなど。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料だけは用意し、必要時はすぐ確認できるようにしてある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時にはすべての職員が速やかな対応を出来るよう火災避難訓練が年2回実施され、消火設備も定期的な点検が実施されている。	鉄骨造り平屋建てで、スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。	今後は、夜間を想定した訓練や避難誘導方法、地域の人たちとの連携等より具体的な場面を想定した訓練方法の再検討の実施に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は出来るだけご本人に一声かけ、了解のもと入室するなど。集団生活であっても個々の私生活を大切にしながら言葉かけ等にも配慮して対応している。	身体拘束廃止委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしい言葉遣いで入居者と対話し、自己表現ができるよう対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズム・パターンを基本に、業務を調整するようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思確認が難しい方でも、ご本人本位に考え外衣や帽子を選ぶなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々介助の度合いも多くなってきているが、出来る方には手伝っていただいたり、可能な範囲で食事を共にしたりしている。	毎月、給食会議を開催して、一人ひとりの検食による嗜好の把握や専門の調理士を配置し、食事が楽しみになるような工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の1日の水分量チェックと食事摂取量を把握して、不足傾向の場合はゼリー等形態の工夫や、栄養補助食で補うなどしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところまではご自身でやっていただくよう促すが、必ず職員も見守りし、仕上げの介助を行なっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況を把握して、出来るだけ自立した排泄習慣を維持できるよう対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便状況に応じて、下剤等の使用方法をかかりつけ医と相談しながら対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本のパターンは決めさせていただいているが、ご希望や必要に応じて対応するよう努めている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握し、居室及びホールにてゆっくり休んでいただけるよう対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成し、必要に応じて見返すことが出来るようにしている。またかかりつけ医と連携し、いつでも相談出来る体制の確保に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好みに合ったテレビ番組があれば誘いかけ、一緒に観る機会をつくるなど。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院の帰りに軽ドライブを行なうなどしている。	一人ひとりの希望にそって、東屋や庭での外気浴や散歩等戸外に出かけられるように支援している。また、イチゴ狩りや夏祭り参加等年間行事を計画し、実施している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使えなくても、ご自分のお財布で所持されている方がおり、それとなく把握して必要な際は支援できるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、介護員が間に入りながらご家族と連絡を取れるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い日差しが入るときは席をずらしたり、気温が高い日は窓を開けるなど小まめに行なっている。	平屋建ての2ユニットで、広いリビングや廊下の壁には、行事参加の写真や季節毎の飾りつけが行われ、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを2台ほど配置し、リラックスして過ごしていただけるようにしている。また事務所で過ごすことも出来るようイス・テーブルを配置している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の好みや希望に応じて、仏壇やタンスなど使い慣れたものをお持ち込みいただいたりしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や家族の写真、仏壇等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には特に大きな表示をして、わかりやすいように工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901548		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム「シャイニング」 フルーツユニット		
所在地	北海道旭川市永山1条11丁目2-39		
自己評価作成日	平成22年10月29日	評価結果市町村受理日	平成22年11月22日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901548&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を入居者と対話しながら、一人一人に合った生活の構築を心掛けています。
チームワークを重視し、スタッフ皆で入居者の生活を支えていけるような環境づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気」「長い間暮らし慣れた家庭の延長となるように」など、「家庭」を基本としたケアの構築を理念としている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣での散歩や、年1回の夏祭りを通して交流の機会を持つ。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でお困りの方が相談に來られ対応したり、必要に応じて地域包括支援センターに繋げるなどしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、報告を行なって参加者の方々より意見を頂き、日々のサービス向上への参考としている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者及び地域包括支援センターとの連携、研修等にも積極的に参加に努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議の中で身体拘束廃止委員会として話し合う機会を持ち、身体拘束のないケアを目指している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議を通して学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている方もおり、管理者が研修等を通して得た情報を、職員間で共有できるよう会議等で伝達・報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧かつわかりやすいよう配慮しながら説明を行ない、不安・疑問が解決できるよう心掛けている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族にとっても意見・苦情等を言いやすいよう雰囲気作りに努め、得られた意見・苦情をケア向上等の機会に役立てている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見要望等の提案を図り、反映に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力しています。今回は処遇改善交付金を100%貰えるよう手続きしました。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	身体拘束廃止の勉強会、外部研修も積極的に参加を促しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者・ケアマネジャーは、交流ができていてサービス向上に努めています。今後、職員の交流の機会を作ります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、契約前に施設内見学をしていただき、ご本人の納得を得て入所いただくよう努めている。またアセスメントを通してご要望等伺うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ事前の見学をしていただき、その際にお話を伺う機会を設け、それぞれの持つ困りごとや悩み、不安などを受け止めるよう心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思いや意向を確認し、グループホームとして出来ること・出来ないことを明らかにしながら必要に応じて他のサービスや相談窓口に繋げるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可笑しかったことには一緒に笑い、情緒的なつながりも大切に、関係が出来ていると思う。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	薬の自己管理や、食事の嗜好などで課題を抱えている方の想いに対し、どのようにケア・サポートしていくかなど、ご家族と一緒に考えて考え相談するなどしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	古いお知り合いの方との面会機会が持てるよう支援したり、お手紙を出すお手伝いをするなどしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しめるレクリエーションやゲームを行ったり、必要なときは職員が仲裁など間に入って対応するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービス利用されていた方のご家族で、町内会などを通して関わり合う機会もあり、現在でも気軽に来訪いただいているなど。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人ともよく話をして意向を聴いたり、ご家族からの意見も参考にして把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話や、他機関からの申し送り、ご家族からの情報などから把握するよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	傾眠がちな方は声かけたり、トイレでのつかまり立ちを継続出来るよう支援したり、状況をよくみて対応するようにしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族面会時に意向を伺ったり、職員間の話し合いをもって計画作成を行なっている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をはじめ、申し送り・連絡のノートを活用している。また状況によっては期間を決めてデータをとるなどして計画見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の受診支援、理美容、買い物等必要に応じて柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防署、民生委員、町内会長等々の協力も得ている。学生や地域のボランティアに行事の協力を得ている。また地域包括支援センターに相談するなど。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡をとり、受診等あった際は結果等必ずご家族にも報告するなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師勤務時に、1週間の中で得た情報から必要と思われる相談事項について報告、相談等行なっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、速やかに情報提供書等作成しお渡ししている。また不明な点はお互いに電話等通じて問い合わせるようにしている。また電話での相談が可能かどうかなど、事前に確認するなどしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった場合や、それらが予測される場合、ホームとして出来る対応等、状況に応じてその都度説明し、その内容を書面化したものを覚書として交付している。また機会を見て早い段階からでも終末期に関するご希望も伺うなど。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料だけは用意し、必要時はすぐ確認できるようにしてある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時にはすべての職員が速やかな対応を出来るよう火災避難訓練が年2回実施され、消火設備も定期的な点検が実施されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際に一声かけたり、ノックして入るなど配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様にとってわかりやすいよう声かけにも注意し、自己決定を支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、常に入居者様のペースに合わせていくよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、ご本人・ご家族の希望に沿ってカット、毛染め、パーマなど行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下機能に低下が見られる方でも、出来るだけ皆さんと同じメニューを食べていただけるようリスクチェック等行ないながら食形態を工夫し対応しているなど。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量は毎日チェックし、不足傾向の場合はゼリーや栄養補助食等で補っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて見守りや介助を行ない、口腔衛生保持に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	手引き歩行でトイレ誘導したり、トイレでのつかまり立ちを継続出来るよう支援したりして、自立を促すよう対応している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便状況を記録し、立位のとれない方でも便座での排便を促すなど、個々の状態に応じて対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本のパターンは決めさせていただいているが、ご希望や必要に応じて対応するよう努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで過ごされている方がいれば消灯を遅らせるなど、状況に応じて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはファイルで確認し、状態変化の把握に努め、医師・看護師に相談等し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲での家事など(お盆拭き、掃除、おしぼりたたみ、調理の手伝い)、役割支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	施設周りや近隣を散歩したり、ご家族来訪の際に一緒に戸外で過ごしていただいたりしている。		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現在特に対応等していない。		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	古いお知り合いの方との面会機会が持てるよう支援したり、ご希望に沿って電話を取り次ぐなど。		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	ホール内正面の壁には、季節ごとの装飾を施し季節感が出るような工夫をしている。また強い日差しが入ることがあるので、その際は日陰場所へ誘導するなどしている。		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	小上がりやソファを配置しており、ゆったりと過ごす際などに利用していただいている。		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室には使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んでいただいたり、懐かしい写真を飾られたり、好きなポスターを貼るなど、思い思いにご使用いただいている。		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	歩行が心配な方には手すりを利用していただいているなど。浴室やトイレなどの表示は、特に工夫なくても皆さん理解されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム「シャイニング」

作成日：平成 22年 10月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	ご家族のご理解やご協力が十分に得られていないケースがあり、ご本人様を支える上でも支障となっている。	ご家族との連携を強くする。	介護やケア、運営、いろいろな情報などについて、説明の機会を多く持つ。ご協力の仰ぎ方を工夫する。	1年
2	34	情報の提供が主であり、訓練等、実践力を培う機会が不足している。	職員全員に、訓練の機会を作る。	普通救命講習を複数回行ない、職員全員が受けられるようにする。	1年
3	35	高齢者施設の特徴を考慮した訓練の仕方が必要。	職員の災害時に対する不安や疑問を出来るだけ解消する。	より具体的な場面を想定して、避難等の訓練を行なう。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。